

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	プロアマ・エアレイダー	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.520	△RG	0.045	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：プロアマ・エアレイダー**

フレアーの幅  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離  インチ

番

研磨剤

**比較対照ボール：プロアマ・レイダー**

フレアーの幅  インチ

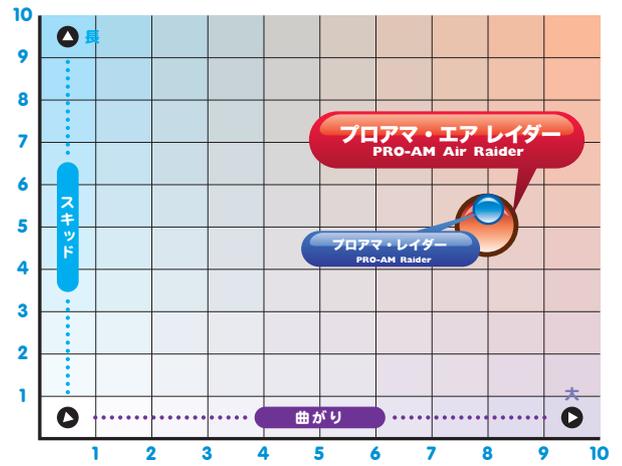
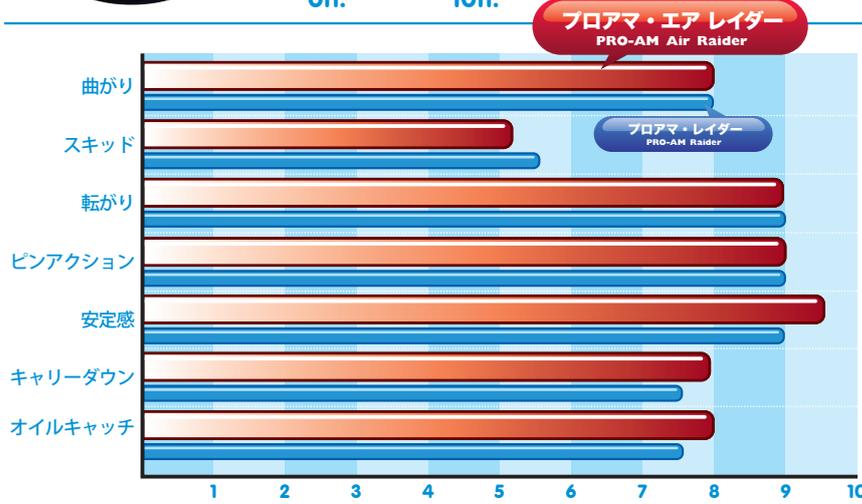
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離  インチ

番

研磨剤



### ボールの評価

攻撃的にシャープな切れ味を信条とするインベーターと、ミッドエリアから安定した堅実なリアクションのレイダー。Pro-amモデルで異なった2極を作り上げるのも、コンディションへのより良い対応と、ボウラーのタイプによる選択を広げることが最大の理由でもありコンセプトです。この両極に焦点を充ててみると、先で暴れるイメージでのコンディションや回転数がやや多目のタイプはレイダーを好む傾向があり、「ボールを自分でコントロールする」分野ではレイダーは高いレベルでの攻め方が期待できるでしょう。そのレイダーの第2作めは”AIR Raider”。レイダーの”Control 6.0P”カバーストックからスキッドを殺さず摩擦係数を上げた”Control 6.2P”カバーストックへとシフトアップさせ、”Toro2.52”コアをそのまま搭載しました。

比較投球で感じたのは、奥の柔らかく切れるイメージはそのままですが、AIR Raiderのミッドエリアでのオイルの捉えかたからピンヒットまでの軌跡はさらに安定して、Raiderよりワンランク高いレベルでコンディションと向き合えるでしょう。

ABSの市場調査では、インベーターとレイダーとは「外に向けて戻す」ラインの時にはインベーターで、「絞り気味のライン」にはレイダーを選択しやすい図式であることが統計で出ています。戻し幅の不足をインベーターで補ったり、先での動きの邪魔さを嫌い、Raiderを使用したりとコンディション、投球ライン、ボウラーのタイプで選択は変わってしまうでしょう。

インベーターが発売された当初と同じように、同じメーカーのボールでリアクションの差を埋めるボールを必要とするのは必然的であり選択肢として必要だと私も感じています。インベーターが変われば、レイダーもその差を埋めるものとして必要となるでしょう。

### 特記事項

**初代レイダーよりグリップを強化させ、ミッドエリアからの安定感を増したAIR Raider。 玄人好みの転がりと回転方向にダイレクトに動くRaiderは貴方の技術でさらに秀でるでしょう。**